

関西医療大学 大学院

修士課程／博士後期課程

Graduate School of
Kansai University of Health Sciences

2025



保健医療の明日を担う ハイレベルの 医療人・研究者を養成

保健医療学の領域における科学的研究を行うための基礎能力を養成するとともに、高度な医療技術と臨床能力をさらに強化することを目標として臨床研究を行います。

関西医療大学 ……

- 保健看護学部
- 保健医療学部
- 大学院 保健医療学研究科
保健医療学専攻（修士課程／博士後期課程）
- 附属保健医療施設
附属診療所
附属鍼灸治療所
附属接骨院
- 附置研究センター
動物実験センター
神経病研究センター
東洋医学研究センター
スポーツ医科学研究センター



Graduate School of
Kansai University of
Health Sciences



関西医療大学
学長

吉田 宗平

広い視野から社会の変化や複雑化に 科学的に対処できる医療人・研究者が求められている

本学は、昭和32年関西医療学園専門学校設立をその淵源とし、東洋医学を中心として西洋医学と融合した全人医療を担うメディカル・プロフェッショナルの育成を目指して、総合的医療大学として発展してきました。近年、日本は世界に先駆け超高齢化し、高度な交通・通信ネットワーク・システムを形成した近代社会となり、その人間関係や疾病構造は複雑化しています。ロコモティブ・シンドロームなど新たな疾病概念が生まれ、うつ病を始めとするストレス性疾患も急増しております。更に、温暖化に伴う異常気象、風・水害の多発や地震など地球環境も大きく変動し、地質学的にも「人新世」とさえ言われます。その中で、2019年以降の新型コロナウイルスによるパンデミックが、世界に猛威を振るい、大きな脅威となりました。21世紀は「感染症の世紀」とさえ言われます。これからの時代、広い社会的視野を持ち、科学的にも正しくこの事態に対処できる医療人・研究者が求められています。リカレント教育の場としても充実した大学院に発展させたいと思っています。



大学院保健医療学研究科
研究科長

鈴木 俊明

専門領域の発展に貢献できる人材を育成するために 博士後期課程を新設

関西医療大学大学院は、本学の建学の精神「社会に役立つ道に生きぬく奉仕の精神」を理解し、保健医療分野の専門職としての高い倫理観に基づき、その分野のリーダーとして専門領域の発展に貢献できる臨床家、研究者を育成することを目標としています。この目標を実現するために、本学大学院の経験豊富な教授陣の指導のもと、西洋医学を基礎としながらも、本学園の特長である東洋医学を融合した統合医療の知識を得て、様々な観点から研究できる環境を大学院生のみなさんに提供させていただきます。

また、令和6年度よりこれまでの修士課程に加えて、博士後期課程を開設いたしました。博士後期課程では、保健医療分野における高度な主導的臨床専門職としての人材を養成することを目的とします。主導的臨床専門職には、保健医療分野での課題を解決するための研究力や、後輩を育成する教育力も必要になるため、この研究力と教育力を活かして、大学等の教育・研究機関でも活躍できる人材の育成も行います。

本学の特徴的な大学院での学びを通して、保健医療学分野でのリーダーになりましょう。みなさんにお会いでき、共に研究できることを楽しみにしております。

社会人への門戸を広げる本学大学院の特色

.....
経験として培われた
保健医療技術を
科学の目で解明する

1

保健医療の発展のためには、治療技術の治効メカニズムを科学的に解明することが求められています。そこで本大学院では、さまざまな疾患や病態に対して、それらの治療法の有効性を確認しメカニズムを探求します。

.....
保健医療を深化させ、
研究と治療をリードする
指導者を養成する

2

これまでに修得した知識や技術をいっそう深化させることで、高度かつ複雑化する患者さんからの要求に応え、医療の現場で即戦力として活動するためのスキルを身につけます。基礎研究と臨床研究にわたる領域から、研究テーマを自ら設定。その研究を重ねることで、保健医療のリーダーとしてさまざまな分野で活躍できるよう研鑽します。

.....
臨床現場への応用を
常に意識した研究活動
をサポートする

3

カリキュラムに臨床実習を取り入れ、医療資格を持つ学生は常に最新の臨床知識・技術を学びます。また、医療資格のない学生は臨床場面の見学を通して自分の研究に活かしていきます。このようなカリキュラムから臨床現場への応用を常に意識した研究活動が可能になります。

.....
チーム医療時代に
必要な豊かな心と
倫理観を培う

4

「チーム医療」の現場では、患者さんの心を癒す医療を実現するため、豊かな人間性とチームワークが求められます。本大学院では医療人としての倫理観の育成と、目的意識を持って主体的に学ぶことで、幅広い医学の基礎知識、保健医療に関する深い専門知識、優れた臨床能力と研究能力を修得します。

日曜日・夜間
等での
受講が可能

職業を有している等の事情により、平日昼間に修学が困難な場合には、一部科目について学長の承認を得て、土曜日や夜間（16:30～21:20）等に受講ができます。

標準修業年限
を超えての
履修が可能

職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて、計画的に履修を進めることを希望する場合は、学長の承認を得て、その計画的な履修を認めることがあります。

博士後期課程

保健医療科学の追究

新規の治療技術の開発

修士課程

学士課程

臨床鍼灸学コース
臨床身体機能学コース
医科学コース



保健医療の専門領域で活躍する 優れた医療人を育成


修士課程

標準修業年限	2年
入学定員	9人
取得学位	修士(保健医療学)

高齢化の進展や疾病構造の変化は、保健医療分野で活躍する人材のレベルアップを求めています。このような社会的要請に応えるため、本大学院では、現代医学の基礎知識を幅広く身につけ、優れた研究能力及び高度な臨床能力を有する人材の育成をめざしています。この目的を達成するために、教育課程は、カリキュラムポリシーに基づいて以下の3つの区分で構成しています。

1. 基礎医学と臨床医学における科学的知識を幅広く身につけるための共通教育科目
2. 保健医療学分野における専門性を高め、高度専門職業人に必要な技術と知識を学ぶ専門教育科目
3. 研究の基礎能力を修得するための修士論文作成を行う特別研究科目

授業科目

区分	授業科目	単位数
共通教育科目 (必修)	保健医療学概論／医療倫理学概論／疫学・保健統計学概論	各2
専門教育科目	基礎領域 10単位以上を選択 機能形態学／生体情報学／病態情報学／内科系病態学Ⅰ／内科系病態学Ⅱ／高次神経病態学／外科系病態学／東洋医学／補完・代替医療学／教育学概論／教育学特論	各2
	専門領域 10単位以上を選択 [臨床鍼灸学コース] 臨床鍼灸学研究計画法／臨床鍼灸学研究方法論／臨床鍼灸学特論講義／臨床鍼灸学特論演習／臨床鍼灸学実習 [臨床身体機能学コース] 臨床身体機能学研究計画法／臨床身体機能学研究方法論／臨床身体機能学特論講義／臨床身体機能学特論演習／臨床身体機能学実習 [医科学コース] 医科学研究計画法／医科学研究方法論／医科学特論講義／医科学特論演習Ⅰ／医科学特論演習Ⅱ	各2
特別研究科目 (必修)	特別研究 これまでの研究テーマ >> 	6

研究能力、臨床能力を強化するための研究指導を行います。研究テーマは、基礎研究と臨床研究にわたる領域から各自の興味と関心に応じて設定できます。

保健医療分野での 高度専門職業人と 研究者をめざす3つのコース



鍼灸師や鍼灸学の研究を行う意欲のある方を対象としたコースです。基礎医学と臨床医学における科学的知識を幅広く身につけながら、鍼灸学に関する高度な専門知識を学び、これからの鍼灸臨床に必要な研究を行います。また、臨床実習を行うことで鍼灸領域での高度専門職業人になることをめざします。

理学療法士、作業療法士、柔道整復師やスポーツトレーナーのような身体機能の改善に関わる方を対象としたコースです。基礎医学と臨床医学における科学的知識を幅広く身につけながら、身体機能の解明に関する高度な専門知識を学び、その改善に必要な研究を行います。また、臨床実習を行うことで身体機能を改善する職種に関連する高度専門職業人になることをめざします。

臨床検査技師や医科学の研究を行う意欲のある方を対象としたコースです。基礎医学と臨床医学における科学的知識を幅広く身につけながら、医科学に関する高度な専門知識を学び、これからの医科学に必要な研究を行います。

臨床鍼灸学コース



臨床身体機能学コース



医科学コース



本大学院修士課程では、建学の精神を踏まえ、3つのポリシーとして、どのような学生を受け入れ、求める能力をどのようなカリキュラムを通じて育成し、どのような力を身に付けた者に学位を授与するかを定めています。

- ディプロマ・ポリシー (修了認定・学位授与の方針)
- カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)
- アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

全文はホームページに掲載しています。



3つの
ポリシー

各自の研究内容・テーマ等が指導希望教員の研究テーマに沿っているかについての事前相談をお願いします。直接連絡をいただくか、連絡先がわからない場合は本学入試・広報課までご連絡ください。

鍼灸学ユニット
鍼灸学ユニットでは冷え症や生理痛などの婦人科疾患に対する鍼灸治療の効果に関する臨床研究や鍼灸が筋の血流や硬さに及ぼす効果についての基礎研究、予防医学として未病スコアを用いた未病養生の研究など鍼灸や東洋医学に関する様々な研究を行っています。

教授 木村 研一 Kimura Kenichi
専門分野 鍼灸学
■主な研究：低周波鍼通電が筋酸素動態に及ぼす影響に関する研究／鍼灸が自律神経機能に及ぼす影響に関する研究

教授 坂口 俊二 Sakaguchi Shunji
専門分野 鍼灸学
■主な研究：冷え症に対する鍼灸治療効果に関する基礎および臨床研究／女性の健康問題に対する鍼灸治療の効果に関する調査・臨床研究

作業療法学ユニット
各教員の専門性をいかして主に以下の研究を進めています。
1. 近赤外線分光法 (NIRS) や脳波を用いた運動学習における脳活動の分析
2. 自閉スペクトラム症児に対する評価法や介入法及び機器の開発
3. 手関節動揺性の粘性・弾性・慣性要素の計測とそのリハビリ応用

教授 大歳 太郎 Ohtoshi Taro
専門分野 発達障害作業療法学
■主な研究：自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入法及び機器の開発

教授 吉田 直樹 Yoshida Naoki
専門分野 リハビリテーション工学
■主な研究：球面座標解析などを応用した多軸関節運動の計測方法・解析方法の研究／UCM解析などによる運動協調性の解析／リハビリ関連機器の開発・制作・適合

准教授 戸村 多郎 Tomura Taro
専門分野 予防医学／未病養生医学
■主な研究：東洋医学の「未病・養生」概念を予防医学に役立てる検討／「未病・養生」の科学化と概念普及に関する研究／東洋医学を健康経営に役立てる検討と普及に関する研究

理学療法学ユニット
本ユニットでは、主に三次元動作解析、筋電図、筋力測定および超音波画像撮像などを用いた身体運動学的研究と、誘発筋電図などをツールに、運動イメージや「経穴刺激理学療法」の臨床応用を目的とした神経生理学的研究を行っています。

教授 河本 純子 Kohmoto Junko
専門分野 脳神経内科学
■主な研究：脳神経内科疾患、特にパーキンソン病などの神経変性疾患の病態解明・治療・QOLに関する研究

ヘルスプロモーション整復学ユニット
本ユニットでは、ヘルスプロモーションと柔道整復の全般について分子生物学的な研究を行うとともに、静的・動的な状態や物理的刺激が身体に及ぼす様々な生理的な変化・効果についての研究の他、医療資格者に求められている多様化した役割について、社会科学の視点からも研究を行っています。

教授 五十嵐 純 Igarashi Jun
専門分野 体力科学
■主な研究：種々の有酸素運動（体操や歩行）が生体に及ぼす影響に関する基礎研究

教授 伊藤 俊治 Itoh Shunji
副研究科長
専門分野 分子病理学／分子生物学／発生学
■主な研究：運動器の発生と再生、特に関節の形成メカニズム／組織石灰化のメカニズムと疾患／力学的な刺激における受容機構などの分子生物学的な研究／鍼灸メカニズムの分子生物学的解析

教授 鈴木 俊明 Suzuki Toshiaki
研究科長
専門分野 理学療法学／臨床神経生理学／鍼灸学
■主な研究：理学療法評価および治療法に関する神経生理学的研究／理学療法と鍼灸医学の考えを組み合わせた新しい治療法の開発と、その効果に関する神経生理学的研究／運動イメージに関する神経生理学的研究／神経疾患に対する鍼灸治療効果に関する基礎および臨床研究

教授 谷 万喜子 Tani Makiko
専門分野 鍼灸学
■主な研究：神経疾患に対する鍼灸治療効果に関する基礎および臨床研究

教授 谷 塾 予士次 Tanino Yoshitsugu
専門分野 運動器疾患理学療法学／身体運動学
■主な研究：理学療法評価および治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究

教授 米田 浩久 Yoneda Hirohisa
専門分野 日常生活活動学／運動学習理論／心身健康科学
■主な研究：脳血管障害片麻痺患者の治療に应用するための体幹筋の表面筋電図・重心動揺計・ビデオ画像解析等を用いた分析／感覚の違いによる運動学習への影響の検討／情動が運動に与える影響の検討

教授 尾原 弘恭 Ohara Hiroyasu
専門分野 柔道整復学／救急療法、応急処置／スポーツ政策、公共政策
■主な研究：運動部活動制度について／健康増進における医療関連職種的位置づけ

教授 津田 和志 Tsuda Kazushi
副学長
専門分野 内科学／循環器内科学／内分泌代謝学／腎臓病学／老年病学
■主な研究：高血圧ならびにメタボリックシンドロームの病態生理に関する研究

教授 畑村 育次 Hatamura Ikuji
専門分野 分子生物学／分子医学／実験病理学
■主な研究：疾患モデル動物および培養細胞を用いた疾患の病理・病態を分子生物学的に解析する研究

教授 吉田 隆紀 Yoshida Takaki
専門分野 理学療法学
■主な研究：運動器疾患の障害発生メカニズムの検討／スポーツ傷害の予防とコンディショニングの研究

准教授 文野 住文 Bunno Yoshibumi
専門分野 理学療法学／臨床神経生理学
■主な研究：運動イメージ及び運動観察に関する神経生理学的検討と臨床応用に向けた治療法の開発


講師 福本 悠樹 Fukumoto Yuki
専門分野 理学療法学／臨床神経生理学
■主な研究：運動イメージに関する神経生理学的検討と運動技能への影響／運動イメージと運動練習を併用した運動学習効果の検討

スポーツトレーナー学ユニット
本ユニットのメンバーは様々なスポーツ現場に出向き、多種多様なトレーニング方法やコンディショニング方法を実践する機会が非常に多いです。したがって、本ユニットは様々な実践内容に関する客観的なエビデンスを、各メンバーが活動するスポーツ現場や社会に実践方法をフィードバックすることを目的として活動しています。

教授 増田 研一 Masuda Kenichi
専門分野 整形外科学／スポーツ医学
■主な研究：運動器の病的状態に対する各種保存治療の効果

准教授 中尾 哲也 Nakao Tetsuya
専門分野 アスレティックリハビリテーション／スポーツ傷害予防
■主な研究：スポーツ傷害予防や身体運動パフォーマンス向上につながる研究

各自の研究内容・テーマ等が指導希望教員の研究テーマに沿っているかについての事前相談をお願いします。直接連絡をいただくか、連絡先がわからない場合は本学入試・広報課までご連絡ください。



基礎医学ユニット

基礎医学ユニットは、解剖学や生理学を専門領域とするメンバーにより構成されています。写真は、メンバーの一人（榎葉）が全日本鍼灸学会において「慢性疼痛の発症機序：基礎医学の立場から」の講演を行っているところです。

教授 大島 稔
Ohshima Minoru


専門分野 神経科学

■主な研究：視床・皮質投射系と皮質局所回路の研究

教授 榎葉 均
Kashiba Hitoshi

専門分野 生理学／神経科学

■主な研究：ラット神経系における「痛み」の受容や伝達／上位中枢からの下行性疼痛抑制系に関する神経生理学および機能形態学研究



臨床医学ユニット

中枢性感作症候群の中でも、特に化学物質過敏症診察の医療施設は全国に数えるほどしかなく、中でも鍼灸を行っている施設が本学だけであることから、台湾医科大学のShau-Ku Huang教授をはじめとして多数の台湾や日本の研究者が本学を来訪し見学と交流を行いました。

教授 伊東 秀文
副学長 Ito Hidefumi

専門分野 脳神経内科学

■主な研究：難治性神経変性疾患の病態解明と集学的治療法の確立

教授 近藤 哲哉
Kondo Tetsuya

専門分野 心身医学／漢方医学／自律神経訓練／自律神経

■主な研究：心身症、精神疾患、不定愁訴患者の証、自律神経機能の線形、非線形解析／心身症の発症機序に対する鍼灸治療の効果／経穴の作用機序の自律神経機能による解析／方証相対の構造に関する数理的研究

教授 東家 一雄
Tohya Kazuo


専門分野 顕微解剖学／免疫組織学

■主な研究：免疫組織の微細構造を機能形態学的に解析する研究

教授 深澤 洋滋
Fukazawa Yohji


専門分野 解剖学／薬理学

■主な研究：慢性疼痛と痒癢の分子基盤について分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いて解析を行う研究



基礎看護学ユニット

本ユニットでは、看護ケアの開発や改良に寄与するために、看護技術に関する基礎研究を行っています。そのなかで、臨床でよく用いられる看護ケアのいくつかについて科学的な根拠に基づいて提供するための機序の解明に取り組んでいます。



臨床検査学ユニット

臨床検査学ユニットでは、血液学的検査の標準化に関する研究やアレルギー疾患発症機序の解明に関する研究、各種病原細菌の遺伝学的解析、病理細胞検査における新規検査法の検討などを中心に研究を行っています。

教授 上田 一仁
Ueda Kazuhito

専門分野 臨床免疫学／輸血細胞治療学／臨床化学

■主な研究：免疫測定系における異常反応の解析／担癌状態早期発見マーカーの検索

教授 大瀧 博文
Ohtaki Hirofumi


専門分野 臨床微生物学

■主な研究：臨床微生物検査の迅速化・効率化に関する研究／臨床的に重要な細菌の病原因子・薬剤耐性因子に関する疫学調査

教授 中納 美智保
Nakano Michiho

専門分野 基礎看護学

■主な研究：温巻法に関する研究／皮膚バリア機能に関する研究／看護師のキャリア発達に関する研究



臨床看護学ユニット

臨床看護学ユニットでは、小児・クリティカル・慢性期・終末期・精神・在宅看護の臨床看護実践およびその教育を探究し、質の高い看護の提供に貢献するための臨床看護研究の推進に貢献しています。また、看護学の未来を見据え、看護基礎教育および臨床看護に携わる看護師に向けた継続教育の質の向上にも取り組んでいます。

教授 森岡 広美
Morioka Hiromi

専門分野 終末期看護学／慢性期看護学／看護教育学

■主な研究：Quality of life & Quality of dyingに関する研究／エンゼルケアに関する研究／アドバンスケアプランニングに関する研究／シミュレーション教育に関する研究

教授 竹田 知広
Takeda Tomohiro

専門分野 免疫学／アレルギー学／血栓・止血学

■主な研究：免疫細胞と凝固系因子のクロストーク／小児アレルギー疾患発症機序の解明に関する研究／血友病インヒビター発症機序に関する研究

教授 西 理宏
Nishi Masahiro

専門分野 内科（糖尿病・内分泌代謝領域、栄養学）

■主な研究：インスリン分泌に関する分子生物学、分子遺伝学的研究、肥満と味覚に関する研究

教授 矢野 恵子
Yano Keiko


専門分野 病理学／細胞診学

■主な研究：構造異型を加味した子宮内膜細胞診、ホルモン不均衡内膜の細胞診像、子宮内膜に生じる細胞質変化（化生）、卵巣境界悪性腫瘍の細胞診、細胞診検査の精度管理に関する研究

准教授 中島 康仁
Nakajima Yasuhiro

専門分野 臨床化学

■主な研究：臨床検査の標準化に関する研究／臨床検査における国際協力に関する研究／動脈硬化マーカーの検索




地域・老年看護学ユニット

地域・老年看護学ユニットでは、高齢者の生活に影響を与える、加齢による身体的・精神的変化を取り上げ、老年期にあっても健康でその人らしいQOLの維持、または向上をめざしたケアの検討、施設を超えて支援する体制等の研究に取り組んでいます。

准教授 小出 由美
Koide Yumi

専門分野 老年看護学／老年社会学

■主な研究：加齢性難聴とコミュニケーションの研究／アドバンスケアプランニングにおける加齢性難聴と認知症に関する研究／加齢性難聴と閉じこもりについての研究



人文・自然科学ユニット

近現代化の過程で「医療史」や「社会史」において「健康」とされる状態がどのように認識されてきたのかを、古代中国医書資料に記された「未病」と「健康観」の歴史的解明、および東アジア文化圏に受け継がれた古医書資料に記された伝統医療文化を基にした疾病予防対策の復興という観点から、複数のテーマで共同研究を行い、超高齢化時代における医療のあり方に一石を投じる役割を果たすものです。

教授 王 財源
Oh Zaigen

専門分野 中国伝統医学（鍼灸学）／中医哲学／鍼灸美容学／薬膳学／中国文学

■主な研究：中国伝統医療文化における多角的研究／「気」の養生思想／中国哲学を基盤とした鍼灸美容／古代中国思想と医学の関係（伝統医学にみえる諸子百家の影響など）



修了生からの

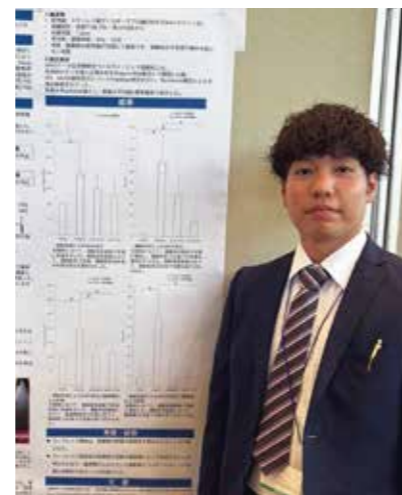


MESSAGE

研究のスタートは臨床現場で経験した疑問から

宝塚医療大学鍼灸学科を卒業後、スポーツトレーナーの活動を行いながら本学の大学院に入学し、現在は宝塚医療大学で教員をしています。大学院での研究のスタートは、臨床現場で経験した、「スポーツ後に鍼治療を行うと筋肉は本当に柔らかくなるのか？」という疑問からでした。その疑問から、筋肉への鍼通電をテーマに「運動負荷による筋硬度変化と鍼通電が筋硬度に与える影響について」の研究を大学院で行いました。学部では基礎的な知識を学びましたが、大学院では、研究

がメインとなり自分自身で問いをたて、その問いを解決するために2年間かけて研究を行いました。大学院での研究や授業を通して、より専門性を深め、研究能力を磨くことができました。現在は大学教員として、大学院で学んだ研究力や分析力を生かし、学生指導の仕事に励んでいます。研究者としてはスタートしたばかりですので、大学院での経験を生かし今後も研究活動を続けていきたいと考えています。



山下 勝大さん

保健医療学専攻修士課程
2024年3月修了

就職後に役立った「教育学」科目の履修

1. 学部との違い

大学院の授業では積極的な発言が求められ、研究活動も自ら計画し実行する必要があります。もちろん指導教員からの指導もありますが、まずは自ら能動的に活動することが求められます。これが学部での学びと大学院での学びの違いだと思います。

2. 大学院での学び

私は大学院に入学する前から研究を行っていましたが、大学院に入学し指導教員から毎週のように研究を指導していただいたことで、さらに研究に没頭することができました。また、日々研究を指導していただく中で、少しずつ研究に関する知識や技術が身につきました。在学中には気づいていませんでしたが、改めて自分が大学院入学直後に作成した研究資料を見ると、自身の成長を実感することができました。

3. 修了後の就職先で役だったこと

大学院では教育学の科目を履修し、「学ぶとは何か」「教育とは何か」といった概念について学びました。私は大学院修了後、専門学校で勤務を始め、学生教育に携わる機会が増えたため、その時に学んだ内容が非常に役に立っています。

黒部 正孝さん

保健医療学専攻修士課程
2021年3月修了



宮内 雅哉さん

保健医療学専攻修士課程
2024年3月修了

大学院での学びを臨床に活かしたい

私は、在学中、多くの学びを得ることができましたが、普段の臨床で生じた疑問・仮説を論理的に検証していくプロセスを学べたこと、常に批判的な視点を持ちながら物事を捉えることの重要性を学べたことは、医療に関わる一人の理学療法士として、とても大きな財産になったと感じています。

まず私が、大学院で研究をしてみたいと思ったきっかけは、スポーツ選手のリハビリテーションに関わる中で、様々な疑問を感じるようになったからです。私は、理学療法士として多くの患者さんと接するにつれて、論文やガイドラインでは一般的に提唱されていることでも、「本当にそうなのだろうか」、「このような場面では解釈も変わってくるのではないだろうか」、という思いが生じていました。そこで、このような自身の臨床疑問を検証してみたいという思いから、修士課程への進学を決意しました。普段の臨床で感じていた抽象的な疑問を、より具体的な臨床疑問へ落とし込み、定量的に検証し、その結果を解釈するというプロセスを多くの方のお力を借りながら進めることができたと思います。「研究」という営みの基礎を学べたことは、今後のキャリアにおいて間違いなく生きてくると感じています。

また、研究を計画していく中で、関連する先行研究をレビューし、それらを批判的に吟味することの重要性を知れたことは非常に有意義でした。多くの文献を読み込んでいく過程は、正直非常に大変でした。しかし、どのような方法からそれらの結果が得られたのかということをも十分に理解しないと、その解釈の妥当性というのは全く変わってくるということをも身を以て感じることができました。これを臨床に置き換

細胞検査士として勤務し、病理細胞診断学に関する疑問や患者さんのためにどのようなことができるのかを日々考えている中で、さらに研鑽し、研究することが医療への貢献に繋がると思い立ち、修士課程に進みました。大学院では、専門分野である病理細胞診断学の最先端で専門的な知識はもちろんのこと、研究倫理や研究の進め方、さらには専門分野外の様々な知識を熱くご教授いただきました。修士研究は、学部生時代からお世話になっている先生のもとで行いましたが、今後の研究課題を見出すことにも繋がり、有意義な学生生活であったと思います。社会人として勤務しながら修士課程の二年間を過ごしましたが、修了後は、新たな角度で物事を考えられるようになりました。

最先端の専門知識に加え、
専門外の知見も吸収



河野 達哉さん

保健医療学専攻修士課程
2024年3月修了

次世代の分野を開拓する研究者、 さらに次の世代を育てる教育者をめざして

博士後期課程

標準修業年限	3年
入学定員	3人
取得学位	博士(保健医療学)

修士課程では優れた臨床能力を持つ高度専門職業人と科学的探究心を持って研究に従事する人材育成に努めてきましたが、博士後期課程では修士課程での実績をさらに発展させ保健医療分野においてリーダーとなる高度な主導的臨床専門職を養成することを目的に2024年4月に開設しました。

また、各分野を牽引するリーダーとしての責任感と判断力を養い、保健医療分野の発展に貢献し、さらに後進の指導を担える人材の養成をめざしています。

カリキュラムは、修士課程では医療職種に応じて3コースを設定していましたが、博士後期課程では様々な職種の人たちが協同して保健医療科学を追究し、新規の治療技術の開発を学べる科目なども設定しています。

授業科目

区分	授業科目	単位	配当年次等	
共通教育科目	保健医療研究方法特論Ⅰ	2	1年 前期 必修	4単位以上を 選択
	保健医療研究方法特論Ⅱ	2	1年 前期 必修	
専門教育科目	保健医療科学基盤講義Ⅰ	2	1年 後期 選択	
	保健医療科学基盤講義Ⅱ	2	1年 後期 選択	
	保健医療科学基盤講義Ⅲ	2	1年 後期 選択	
	保健医療科学実践演習Ⅰ	2	1年 後期 選択	
	保健医療科学実践演習Ⅱ	2	1年 後期 選択	
	保健医療科学実践演習Ⅲ	2	1年 後期 選択	
	保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ	2	1年 後期 選択	
	保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ	2	1年 後期 選択	
	保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ	2	1年 後期 選択	
	保健医療技術開発学実践演習Ⅰ	2	1年 後期 選択	
保健医療技術開発学実践演習Ⅱ	2	1年 後期 選択		
保健医療技術開発学実践演習Ⅲ	2	1年 後期 選択		
特別研究科目	特別研究Ⅰ	4	1年 通年 必修	
	特別研究Ⅱ	4	2年 通年 必修	
	特別研究Ⅲ	4	3年 通年 必修	

研究指導教員

教授 伊藤 俊治
副研究科長 Itoh Shunji



専門分野 分子病理学/分子生物学/発生学

主な研究 運動器の発生と再生、特に関節の形成メカニズム/組織石灰化のメカニズムと疾患/力学的な刺激における受容機構などの分子生物学的な研究/鍼灸メカニズムの分子生物学的解析



教授 大瀧 博文
Ohtaki Hirofumi



専門分野 臨床微生物学

主な研究 臨床微生物検査の迅速化・効率化に関する研究/臨床的に重要な細菌の病原因子・薬剤耐性因子に関する疫学調査



教授 大歳 太郎
Ohtoshi Taro



専門分野 発達障害作業療法学

主な研究 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入法及び機器の開発



教授 木村 研一
Kimura Kenichi



専門分野 鍼灸学

主な研究 低周波鍼通電が筋酸素動態に及ぼす影響に関する研究/鍼灸が自律神経機能に及ぼす影響に関する研究



教授 坂口 俊二
Sakaguchi Shunji



専門分野 鍼灸学

主な研究 冷え症に対する鍼灸治療効果に関する基礎および臨床研究/女性の健康問題に対する鍼灸治療の効果に関する調査・臨床研究



教授 鈴木 俊明
研究科長 Suzuki Toshiaki



専門分野 理学療法/臨床神経生理学/鍼灸学

主な研究 理学療法評価および治療法に関する神経生理学的研究/理学療法と鍼灸医学の考えを組み合わせた新しい治療法の開発と、その効果に関する神経生理学的研究/運動イメージに関する神経生理学的研究/神経疾患に対する鍼灸治療効果に関する基礎および臨床研究



教授 竹田 知広
Takeda Tomohiro



専門分野 免疫学/アレルギー学/血栓・止血学

主な研究 免疫細胞と凝固系因子のクロストーク/小児アレルギー疾患発症機序の解明に関する研究/血友病インヒビター発症機序に関する研究



教授 谷 万喜子
Tani Makiko



専門分野 鍼灸学

主な研究 神経疾患に対する鍼灸治療効果に関する基礎および臨床研究



研究指導教員

教授

西 理宏

Nishi Masahiro



専門分野

内科（糖尿病・内分泌代謝領域、栄養学）

主な研究

インスリン分泌に関する分子生物学、分子遺伝学的研究、肥満と味覚に関する研究



教授

深澤 洋滋

Fukazawa Yohji



専門分野

解剖学／薬理学

主な研究

慢性疼痛と搔痒の分子基盤について分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いて解析を行う研究



教授

吉田 直樹

Yoshida Naoki



専門分野

リハビリテーション工学

主な研究

■主な研究：球面座標解析などを応用した多軸関節運動の計測方法・解析方法の研究／UCM解析などによる運動協調性の解析／リハビリ関連機器の開発・制作・適合



准教授

文野 住文

Bunno Yoshibumi



専門分野

理学療法学／臨床神経生理学

主な研究

運動イメージ及び運動観察に関する神経生理学的検討と臨床応用に向けた治療法の開発



講師

福本 悠樹

Fukumoto Yuki



専門分野

理学療法学／臨床神経生理学

主な研究

運動イメージに関する神経生理学的検討と運動技能への影響／運動イメージと運動練習を併用した運動学習効果の検討



本学大学院では、建学の精神を踏まえ、3つのポリシーとして、どのような学生を受け入れ、求める能力をどのようなカリキュラムを通じて育成し、どのような力を身に付けた者に学位を授与するかを定めています。

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

全文はホームページに掲載しています。



3つの
ポリシー

Q&A

- Q** 研究指導教員との事前相談はしなければなりませんか。
修士 博士
- A** 原則として事前相談をお願いしています。研究指導教員の専門分野および主な研究内容を確認の上、入学後の研究計画や履修計画などについて十分に相談してください。
- Q** 研究指導教員との事前相談の実施方法について教えてください。
修士 博士
- A** 研究指導教員一覧から指導を希望する教員を選んで各自で連絡を取って事前相談を行ってください。なお、連絡先がわからない場合には、本学入試・広報課までご連絡ください。
- Q** 過去問の入手方法を教えてください。
修士 博士
- A** 入学試験要項とあわせて配付しています。要項と同時に入手できていない場合は本学入試・広報課までご請求ください。
- Q** 個別出願資格審査の制度について教えてください。
修士 博士
- A** 大学院修士課程へは、大学を卒業（見込みを含む）していなくても、一定の条件を満たしていれば出願資格が認められる場合があります。医療・福祉系国家資格を取得した後、2年以上の就業経験があり、入学時に満22歳以上であれば本制度の申請により出願資格を認めることができます。また、博士後期課程の場合、大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した経験があり、入学時に満24歳以上であることを条件にしています。いずれの場合も個別出願資格審査の申請手続きを出願開始2週間前までに行ってください。手続き方法等については別冊子の「入学試験要項」でご確認ください。
- Q** 研究業績書、研究計画書は必ず所定の様式を使わなければいけませんか。また、手書きでも良いですか。
博士
- A** 研究業績書、研究計画書ともに記載する項目が網羅されていれば別に作成されたものでも構いません。また、手書き（黒のボールペンを使用）されたものであっても差し支えありません。
- Q** 提出した論文のコピー等は入試後、返却してもらえるのでしょうか？
博士
- A** 提出された出願書類、資料等は返却しません。
- Q** 入試のプレゼンテーションでは何を準備すれば良いですか。
博士
- A** プレゼンテーションの形式は自由です。プロジェクターやPCは本学で用意します。また、持参されたPCをプロジェクターに接続して利用することも可能です。
- Q** 入試について質問があります。どこに聞けば良いでしょうか。
修士 博士
- A** 本学入試・広報課まで電話または問い合わせフォームからお問い合わせください。
- Q** 大学を見学することはできますか。
修士 博士
- A** できます。本学ホームページの[学部・大学院]→[大学院]ページに進み、「資料請求・説明会申込み」から申し込んでください。

大学院修了後の進路

本大学院修了後の想定される主な進路は次のとおりです。

- 保健医療施設で、鍼灸師・理学療法士・柔道整復師・臨床検査技師・看護師等として、専門的な知識・技術を持って活躍できる指導的医療従事者
- 地域医療における保健医療のリーダーとして活躍する医療人
- 研究所、医療機関・企業などの研究部門の研究者
- 保健医療分野の教育機関の教員



2025年度 入学試験概要

募集人員

修士課程	9人
博士後期課程	3人

入学試験日程

	I 期	II 期
実施課程	修士課程のみ	修士課程および博士後期課程
試験日	2024年9月29日(日)	2025年3月9日(日)
出願期間	2024年9月10日(火)～9月20日(金)	2025年2月18日(火)～2月28日(金)
合格発表日	2024年10月18日(金)	2025年3月13日(木)
手続締切日	1次	2024年11月8日(金)
	2次	2024年12月6日(金)

選考方法

実施課程	I 期 II 期	科目名	時間	配点		英語または専門科目からいずれか選択
		英語※1	60分	100点	300点	
専門科目※2	60分	100点	300点			
小論文		100点				
博士後期課程	II 期	面接	20分	100点	英語または専門科目からいずれか選択 ※3	
		英語※1	60分	100点		
		専門科目※2	50分	100点		
		面接・プレゼンテーション※4		参考		
書類審査						

※1) 和英、英和辞書を持ち込むことができます。(電子辞書、医学関係の辞書は不可)

※2) 専門科目を選択した場合は、本大学院で開講する特別研究に係る8分野(臨床鍼灸学・臨床身体機能学・機能形態学・生体情報学・病態情報学・内科系病態学・高次神経病態学・医科学)より出題された課題から、2題を選択して解答してください。(課題は、1分野から各2題が出題されます。) 選択する課題は、同分野もしくは異分野による2課題のどちらでもかまいません。

※3) 本学大学院修士課程の修了者は、修了証明書および成績証明書の提出をもって英語または専門科目の受験を免除します。また、本学大学院修士課程を修了見込みで受験する場合、修士課程における研究指導教員の推薦書および提出された出願書類を審査し、英語または専門科目の受験を免除することがあります。

※4) 大学院修士課程等における研究内容および博士後期課程で希望する研究テーマについてのプレゼンテーション(20分)と質疑応答(30分)を行います。

学費(予定)

		入学金	授業料(年額)	計
修士課程	1年次	300,000円	600,000円	900,000円
	2年次		600,000円	600,000円
	2年間合計			1,500,000円

		入学金	授業料(年額)	計
博士後期課程	1年次	300,000円	600,000円	900,000円
	2年次		600,000円	600,000円
	3年次		600,000円	600,000円
	3年間合計			2,100,000円

1. 授業料は、前・後期の2期に分けての納入です。
2. 納付金額は、税制の変更や経済情勢の変化等により改定することがあり、在学中に変更となった場合には、改定後の金額が適用となります。
3. 授業内で治療実習を行うことがある科目を履修する場合には、取得している国家資格に対応する損害賠償保険への加入が必要です。

入学手続きに必要な納入額

実施課程		本学園が設置する 学校の卒業生等	本学園が設置する 学校の卒業生等以外	II期合格者は一括納入となります。
		修士課程	第1次手続納入額	
	第2次手続納入額	—	300,000円	
	合計(入学手続時納入額)	300,000円	600,000円	
博士後期課程	入学手続時納入額	300,000円	600,000円	

本学園が設置する学校の卒業生、修了者には入学手続納付金のうち、入学金相当額を授業料から減免します。

奨学金

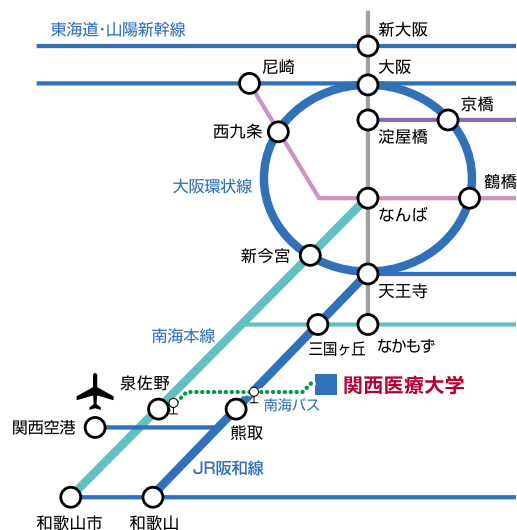
日本学生支援機構、その他の奨学金を取り扱っています。

教育訓練給付制度

本学大学院(修士課程、博士後期課程)は、令和6年度入学生より「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座(一般教育訓練給付)」の指定を受けています。この制度は、一定の条件を満たす雇用保険の被保険者(在職者)または被保険者であった者(離職者)が修了後、本人がハローワークへ申請することで、自らが教育訓練施設に支払った教育訓練経費の20%(上限額10万円)の教育訓練給付金が支給されるものです。

詳しくは、厚生労働省 教育訓練給付についてのページをご覧ください。

関西医療大学 大学院



お問い合わせは …

〒 590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉 2-11-1

TEL 072-453-8284 (入試・広報課)

<https://www.kansai.ac.jp>